

1 仙台城跡の調査について

1) 調査箇所について

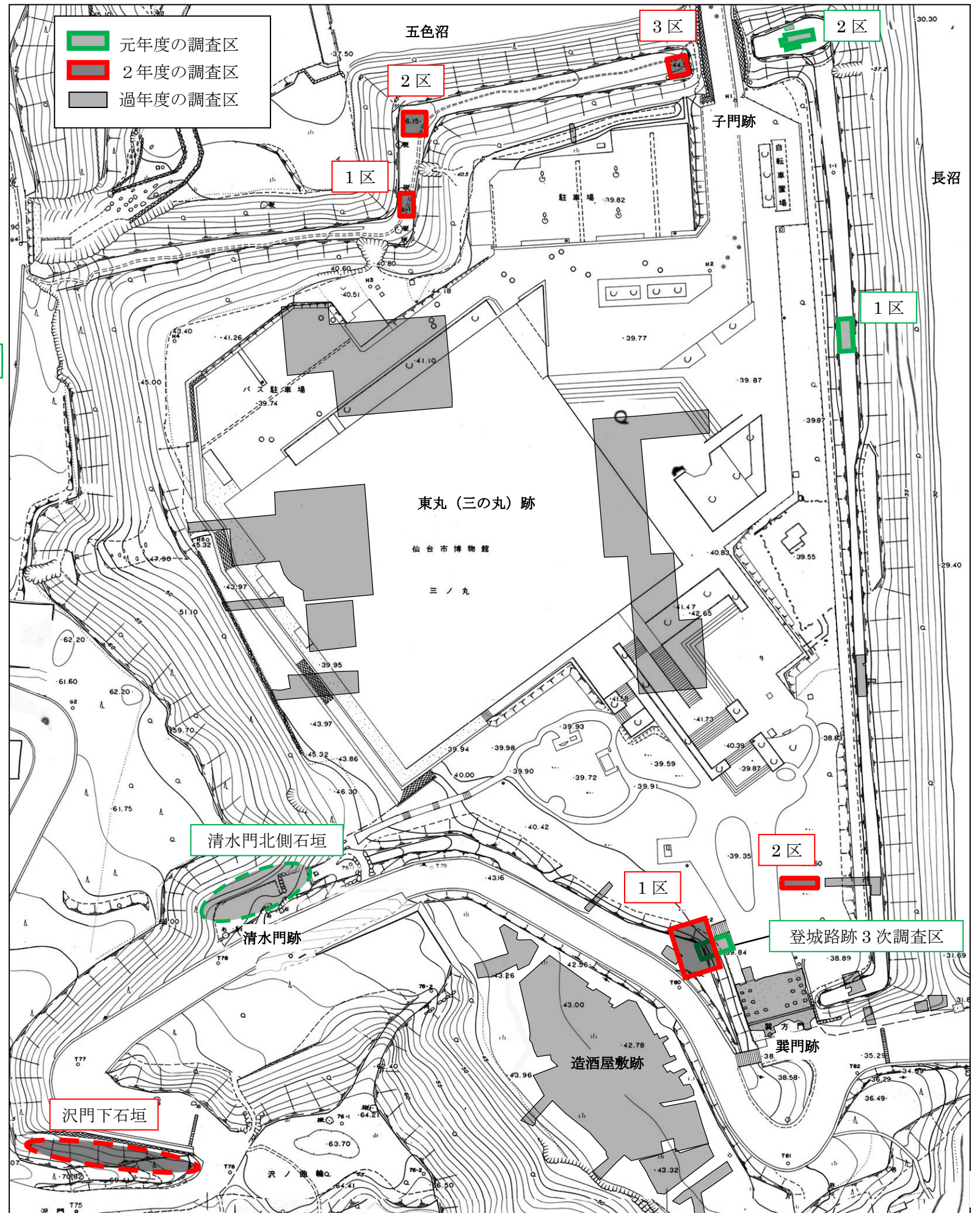
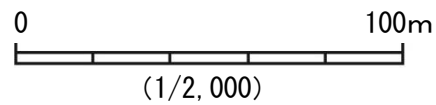
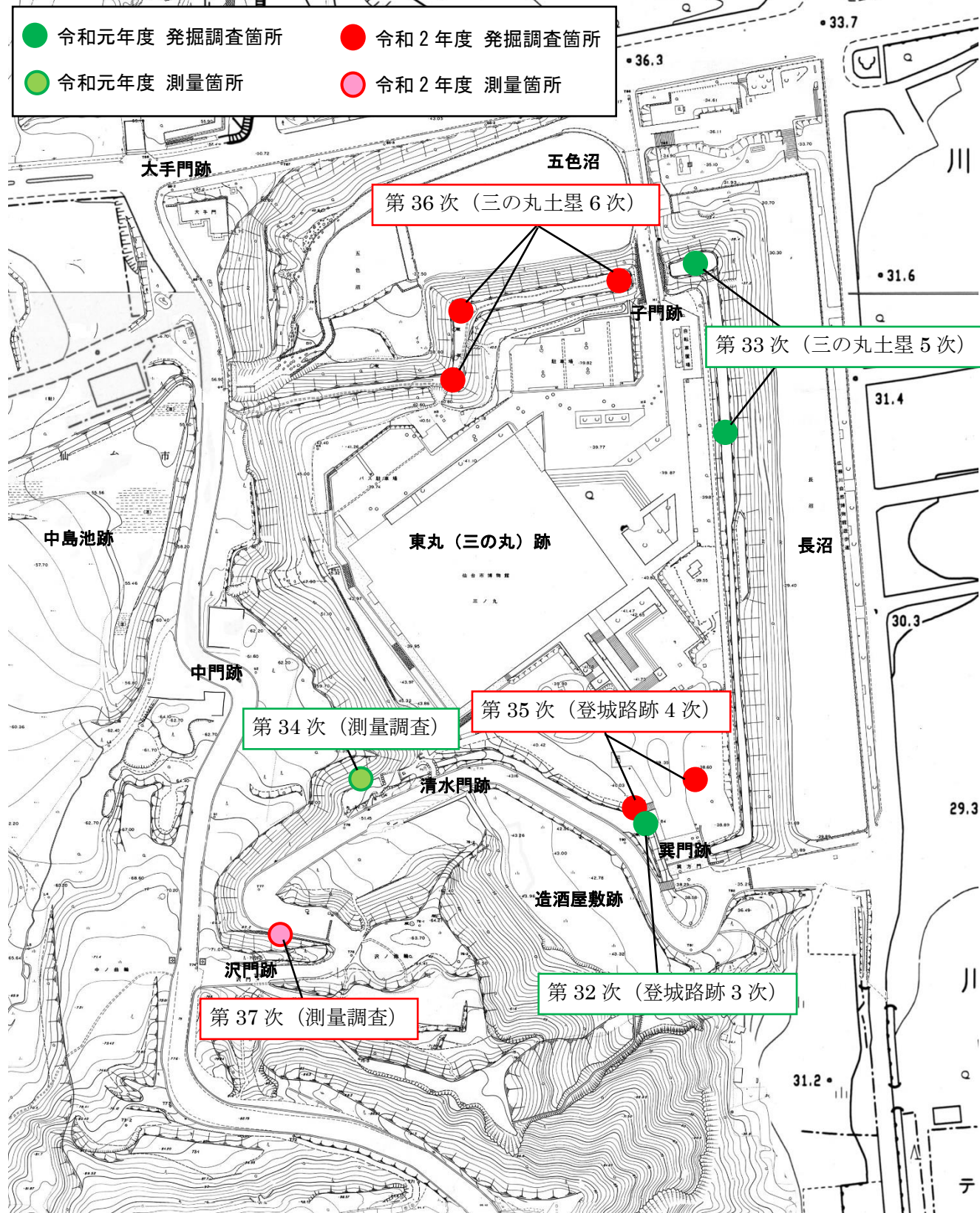


図1 令和元年度および令和2年度 調査区配置図

2) 令和元年度の調査成果について

1) 第 32 次調査（登城路跡 3 次）の成果

〔調査目的〕・巽門跡周辺の登城路の位置および遺構の有無の確認

- ・巽門西側の石垣の続きを明らかにし、石垣がどこまで延びているか確認する。
- ・江戸時代の三の丸（東丸）の形状および造酒屋敷跡平場の造成方法を明らかにする。
- ・江戸時代の登城路の路面を明らかにする。

〔調査期間〕 令和元年 7 月 1 日～11 月 7 日

〔調査面積〕 19 m²

- 〔調査成果〕
- ・調査区内には、大きく分けて 8 層の堆積土または整地土が確認され、I 層が現代、II～V 層が近代以降、VI～VIII 層が 19 世紀以降の年代が考えられる。また、II 層は溶けたガラスが含まれるため、第二次世界大戦後の整地土と考えられる。
 - ・巽門西側石垣の延長と見られる KS-1155 石垣と、それに付属する KS-1154 石列を検出した。
 - ・KS-1155 石垣は北側と南側で積み方が異なり、それぞれの中でも異なる積み方が観察される。石垣は、南側は VI 層上面、北側は V 層上面に構築される。
 - ・登城路の路面は、V 層上面と考えられ、近代以降の可能性が考えられる。VI 層上面も、遺構が検出されていることから、登城路の路面であった可能性が想定される。

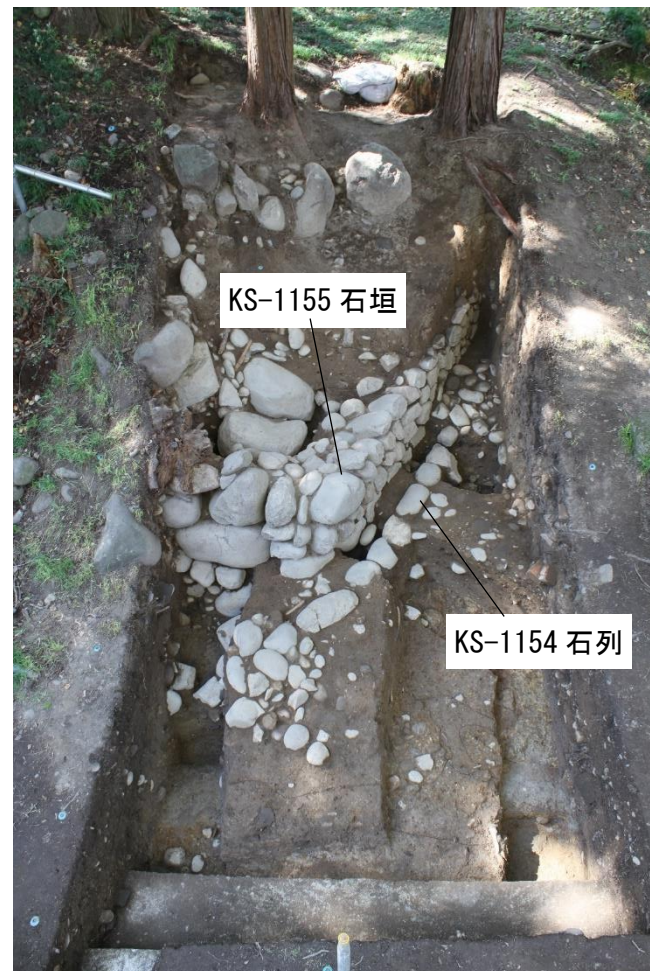


図 2 登城路跡 3 次調査区 完掘状況（東から）

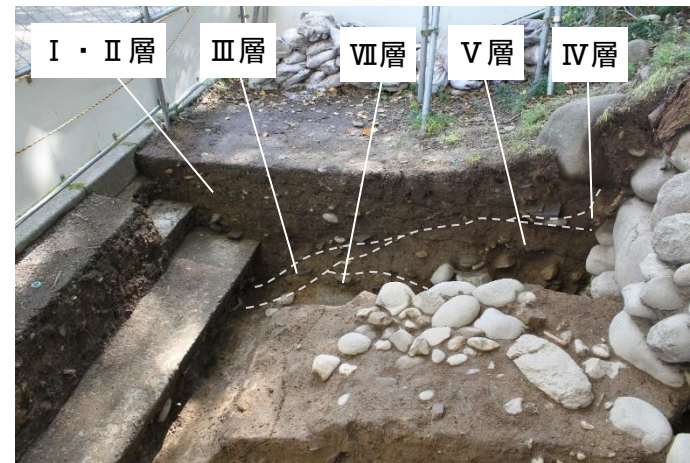


図 3 登城路跡 3 次調査区 南壁断面（北から）

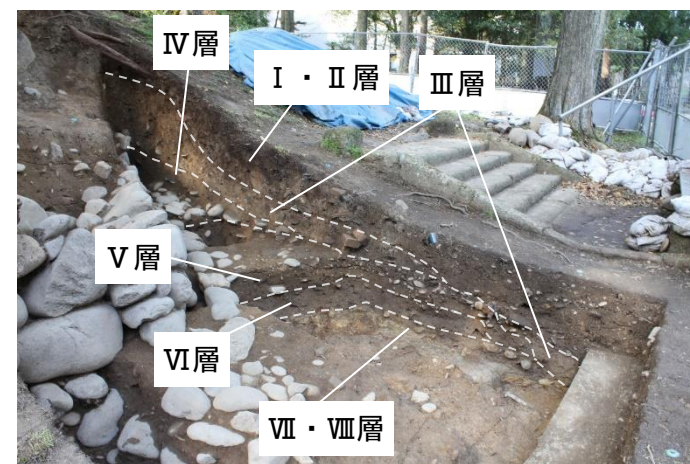


図 4 登城路跡 3 次調査区 北壁断面（南東から）

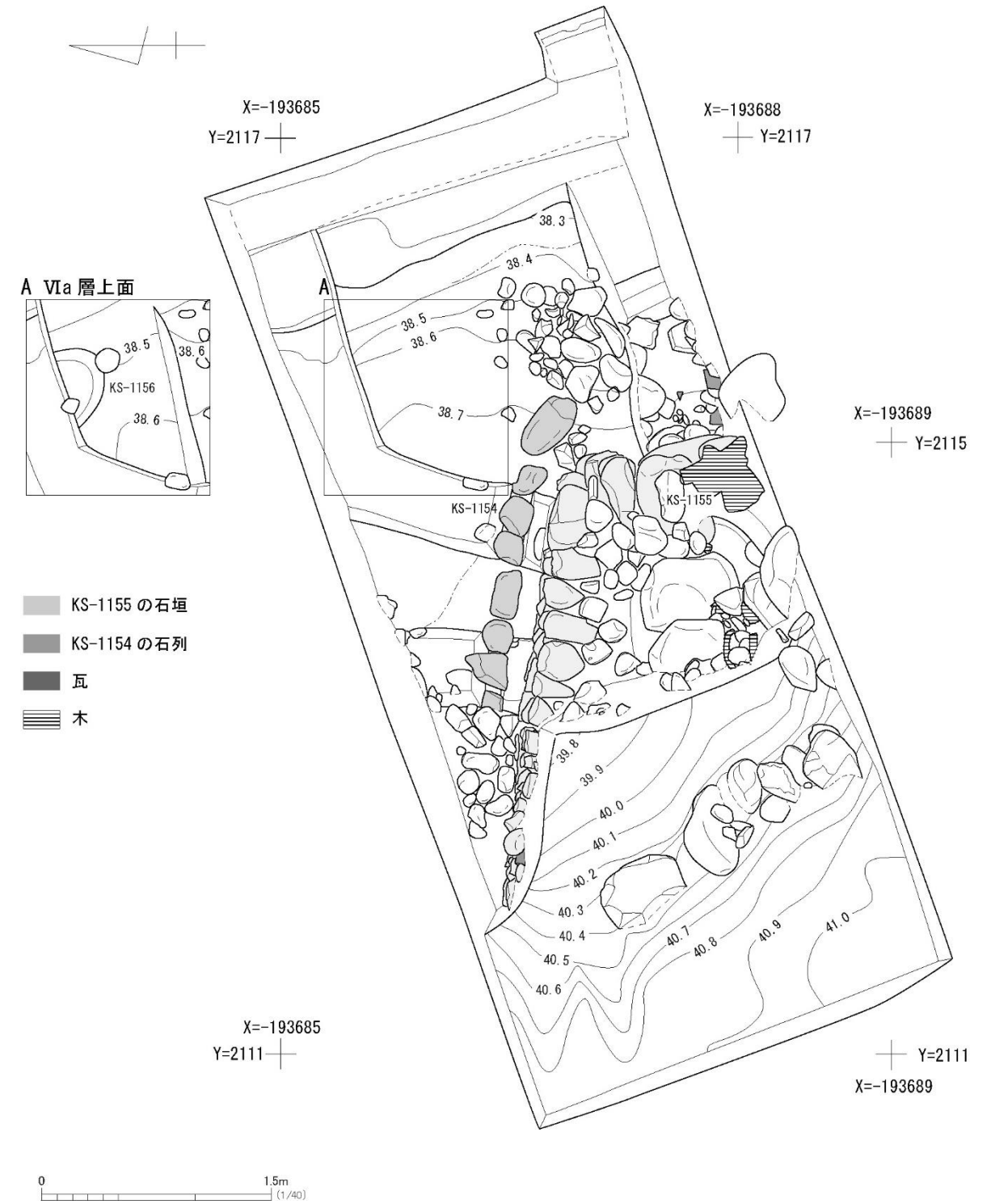


図 5 登城路跡 3 次調査区 平面図 (1/40)

- I・II 層：第二次関大戦後の整地土。レンガ・ガラス片を含み、熱で変形したガラスを含む。
- III 層：近代以降の整地土。レンガ・ガラス片を含むが、熱で変形したガラス片を含まない。
- IV・V 層：近代以降の可能性のある層。レンガ・ガラス片を少量含む。
- VI 層：上面で 19 世紀後半代の遺物が出土した層。VI 層上面に KS-1155 石垣が構築される。
- VII・VIII 層：19 世紀代の遺物が出土した層。最下層の VIIIb 層から 19 世紀代の遺物が出土した。

2 第 33 次調査（三の丸土塁 5 次）の成果

- [調査目的] ・江戸時代の土塁形状の確認および土塁上の遺構の有無の確認
 ・土塁盛土の残存状況を確認し、廃城後の改変の有無を明らかにする。
 ・絵図でみられる土塀の痕跡を確認し、その位置を明らかにする。

[調査期間] 令和元年 7 月 1 日～11 月 7 日

[調査面積] 1 区:20 m² 2 区:16.8 m²

[調査成果]

- 1 区 ・中央部に集石を伴う円形の遺構（KS-1159）を検出した。柱跡などの根固め石の可能性もあるが、周囲に柱跡等がなく、塀跡等に関連する遺構と判断できなかった。
 ・KS-1159 上面や表土などから、少量だが 17 世紀代の遺物が出土した。土塁に伴うものではなく、三の丸（東丸）の政宗屋敷や蔵の管理に関わる遺物が混入したと考えられる。
- 2 区 ・瓦を多く含む KS-1165 集石遺構を検出した。集石は検出面より深さ 55 cm まで及び、瓦や石などを廃棄した遺構の可能性も考えられる。出土した瓦が、土塁上の建造物に由来するのか、または隣接する子門に由来するのかは明らかに出来なかったが、棧瓦が含まれず、瓦が土塁上の建造物に用いられていたものとする、2 区周辺の建造物は仙台城で棧瓦が使用される時期には無くなっていた可能性が考えられる。
- 全体 ・調査区全体で遺構が少なく、いずれの遺構も単独で存在し、明確に塀跡等に係る遺構と判断することは出来なかった。少なくとも、今回の調査区周辺では、仙台城の廃城時に塀跡等は無かったと考えられる。

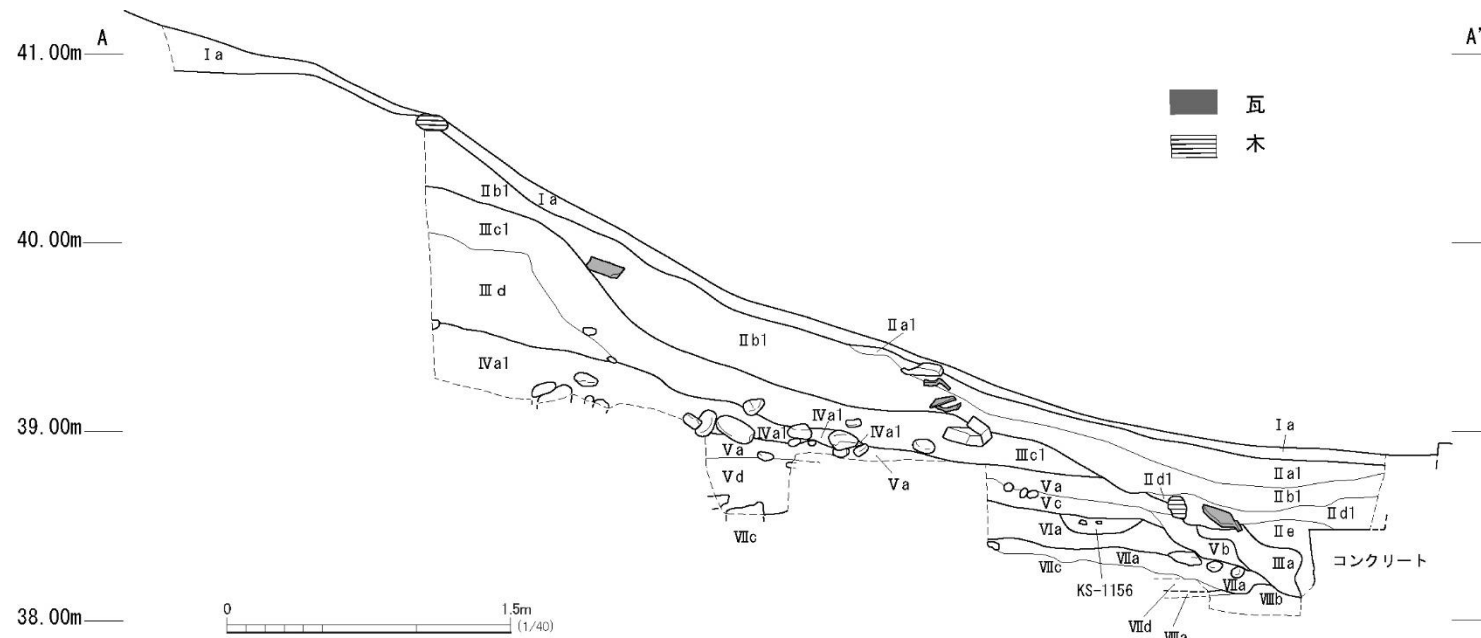


図 6 登城路跡 3 次調査区 北壁断面図 (1/40)

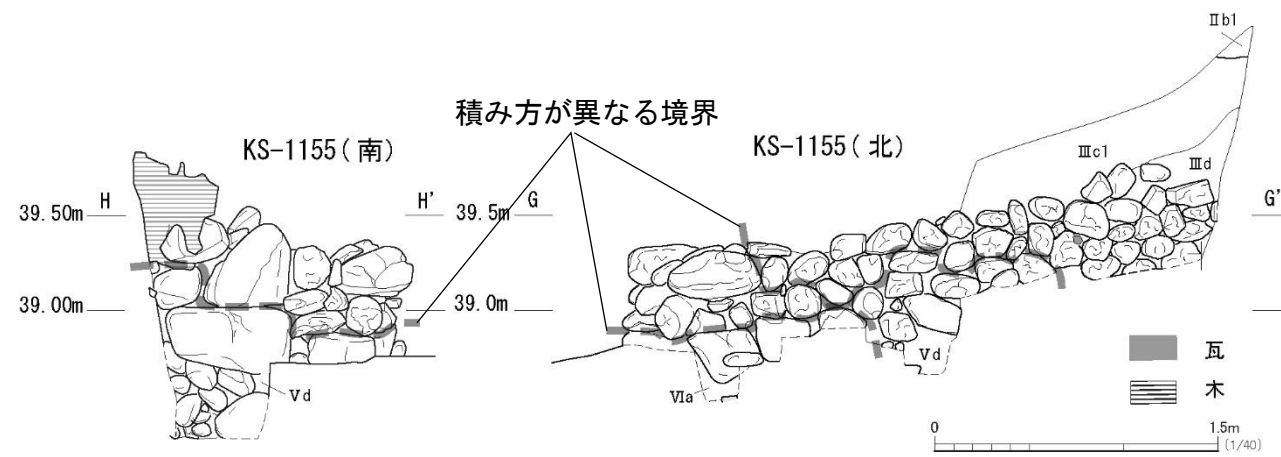


図 7 KS-1155 石垣立面図 (1/40)



図 8 北に延びる石垣 (東から)



図 9 北西に延びる石垣と前面の石列 (北東から)

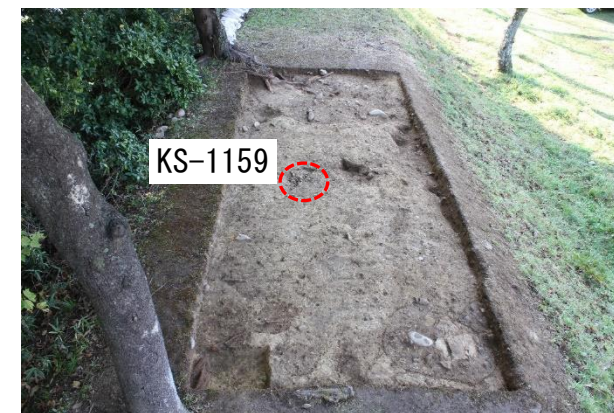


図 10 三の丸土塁 5 次調査 1 区 完掘状況 (北から)



図 11 三の丸土塁 5 次調査 2 区 完掘状況 (東から)



図 12 1 区 KS-1159 掘削状況 (南西から)



図 13 2 区 KS-1165 集石遺構 (北から)

③仙台城跡第 34 次調査（清水門北側石垣測量）について

〔調査目的〕 登城路跡周辺石垣の現況確認および整備のための基礎データの収集

〔調査期間〕 令和元年 7 月 2 日～12 月 20 日

〔測量面積〕 石垣立面：34 m² 礎石平面：20 m²

〔測量内容〕 清水門北側石垣（5 面）について、石垣立面のレーザー測量を行い、立面図および縦横断面図の作成を行った。また、清水門北側石垣の前面にある礎石のレーザー測量と縦断面図の作成も行った。

〔調査成果〕 ・石垣の年代は、多くが規模の小さい石垣であるため、A 面のみ検討すると、A 面西側は、横長の自然石を横目地が通るように積む特徴があり、本丸北壁石垣 I 期石垣と類似することから、慶長年間の可能性がある。A 面東側は、自然石を乱積みにし、石材を落とすように積む特徴があり、本丸北壁石垣 II 期石垣と類似することから、元和 2 年以降から正保年間の積み直しの可能性が考えられるが、修復履歴などは現在のところ確認できない。

・礎石は、平成 15～17 年度の測量で、南と北で高さが異なることが指摘されていたが、今回も高さが異なることを確認した。北側の礎石は標高 51.1m (H23 震災前：51.8m)、南側は標高 50.7m (H23 震災前：51.3m) で、約 0.4m の高低差があり、上面の比高差が大きくなる。一方で、北側礎石下部に埋没する石材は、確認できる高さが標高 50.6m で、南側礎石との比高差は小さい。

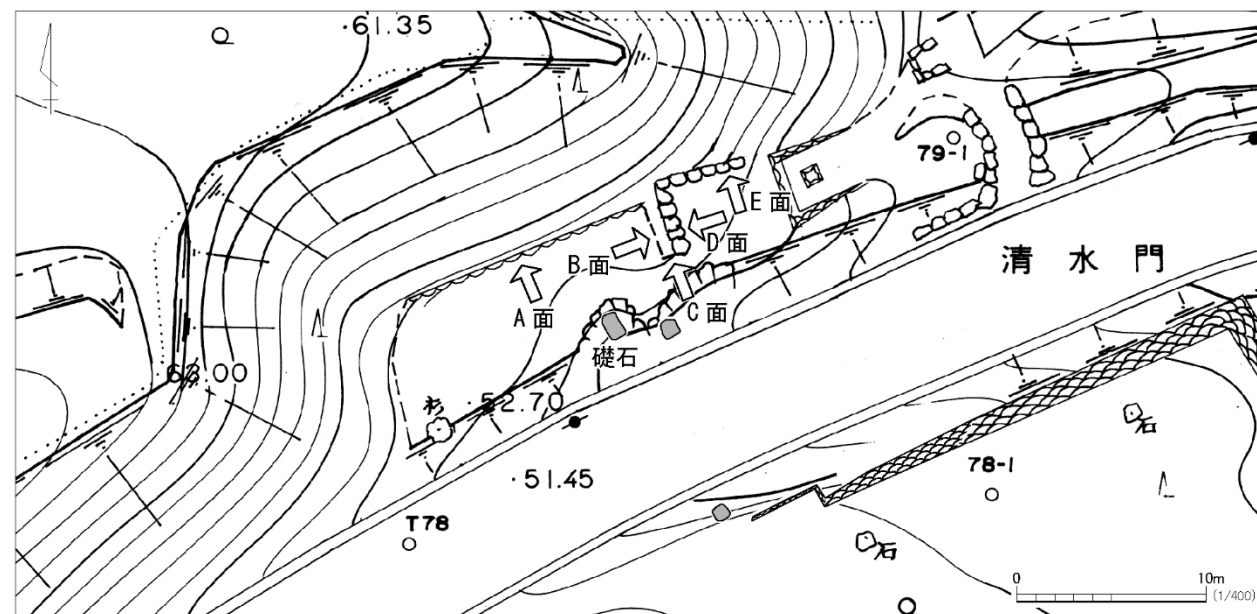


図 14 清水門北側石垣 面の名称

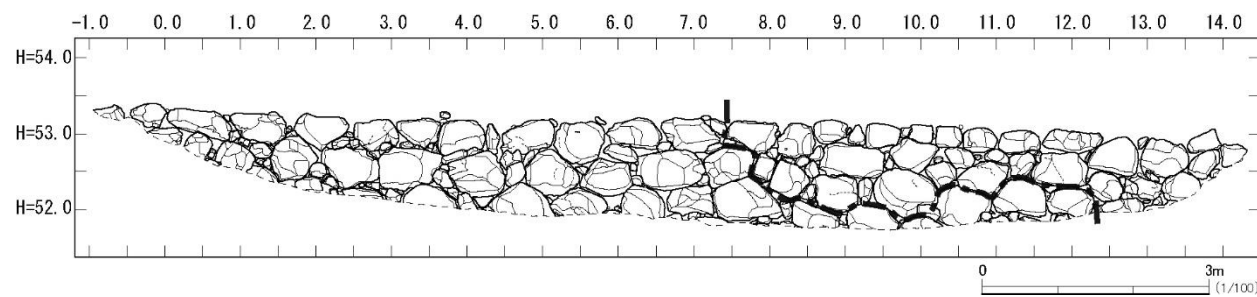


図 15 清水門北側石垣 A 面立面図

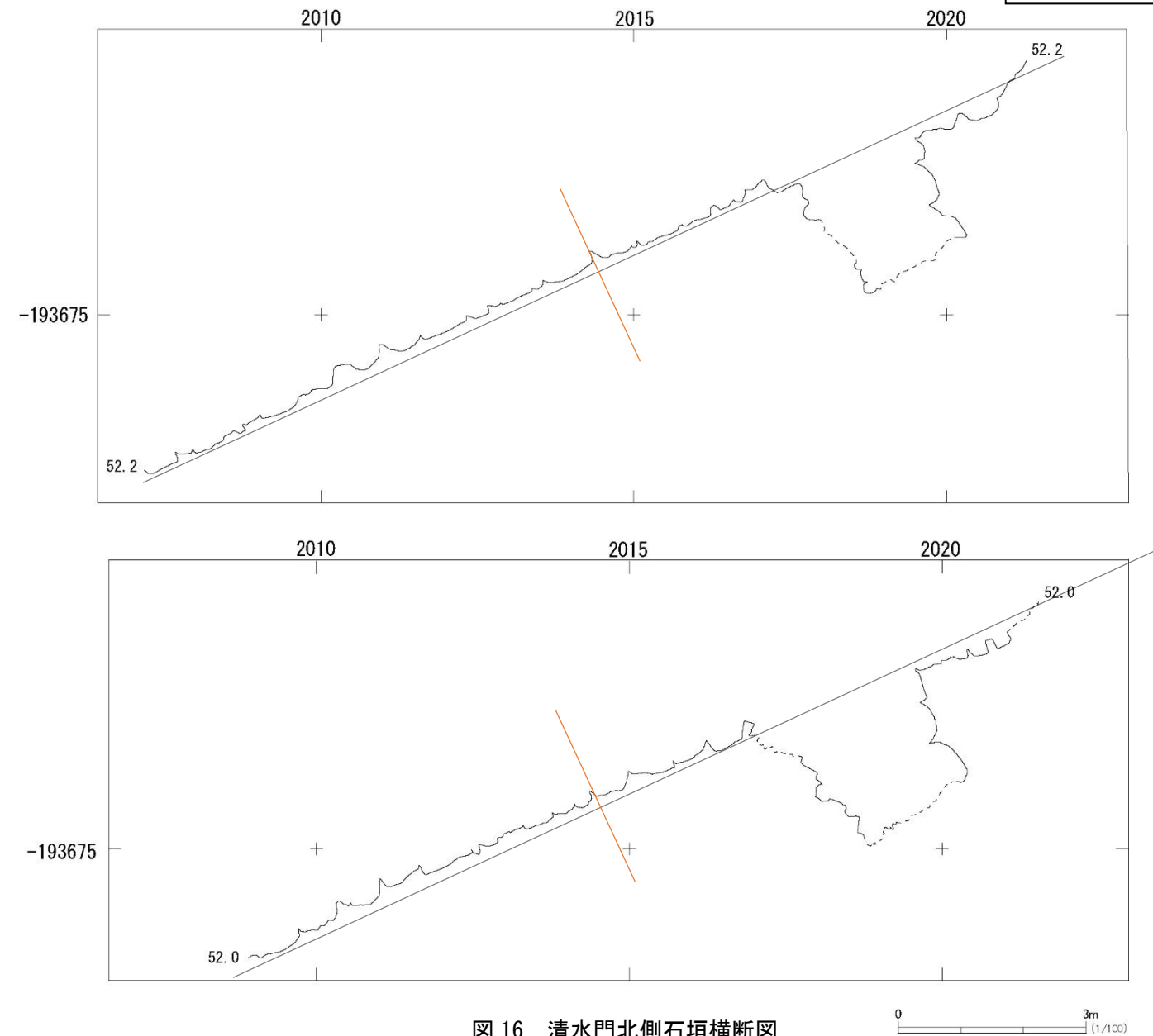


図 16 清水門北側石垣横断面図



図 17 清水門北側石垣全景（南東から、20190708 撮影）

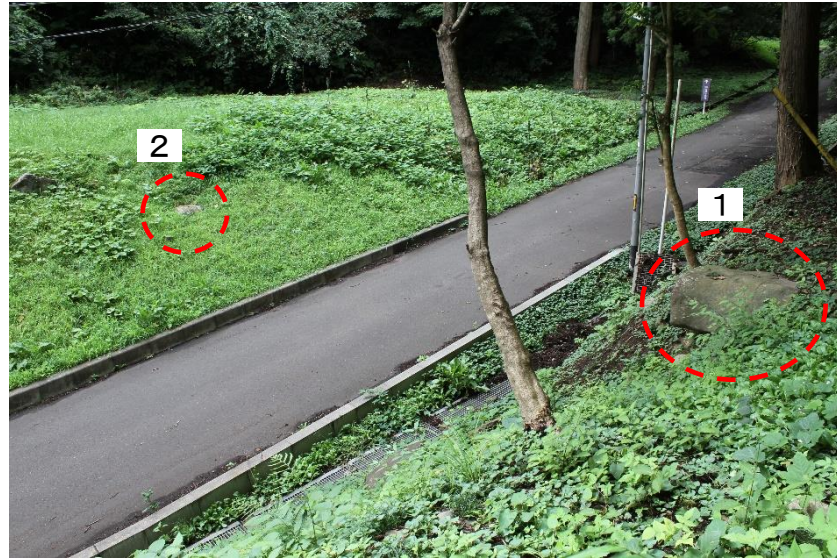


図 18 清水門跡に残る礎石（北東から）



図 19 清水門北側礎石 側面（南から）

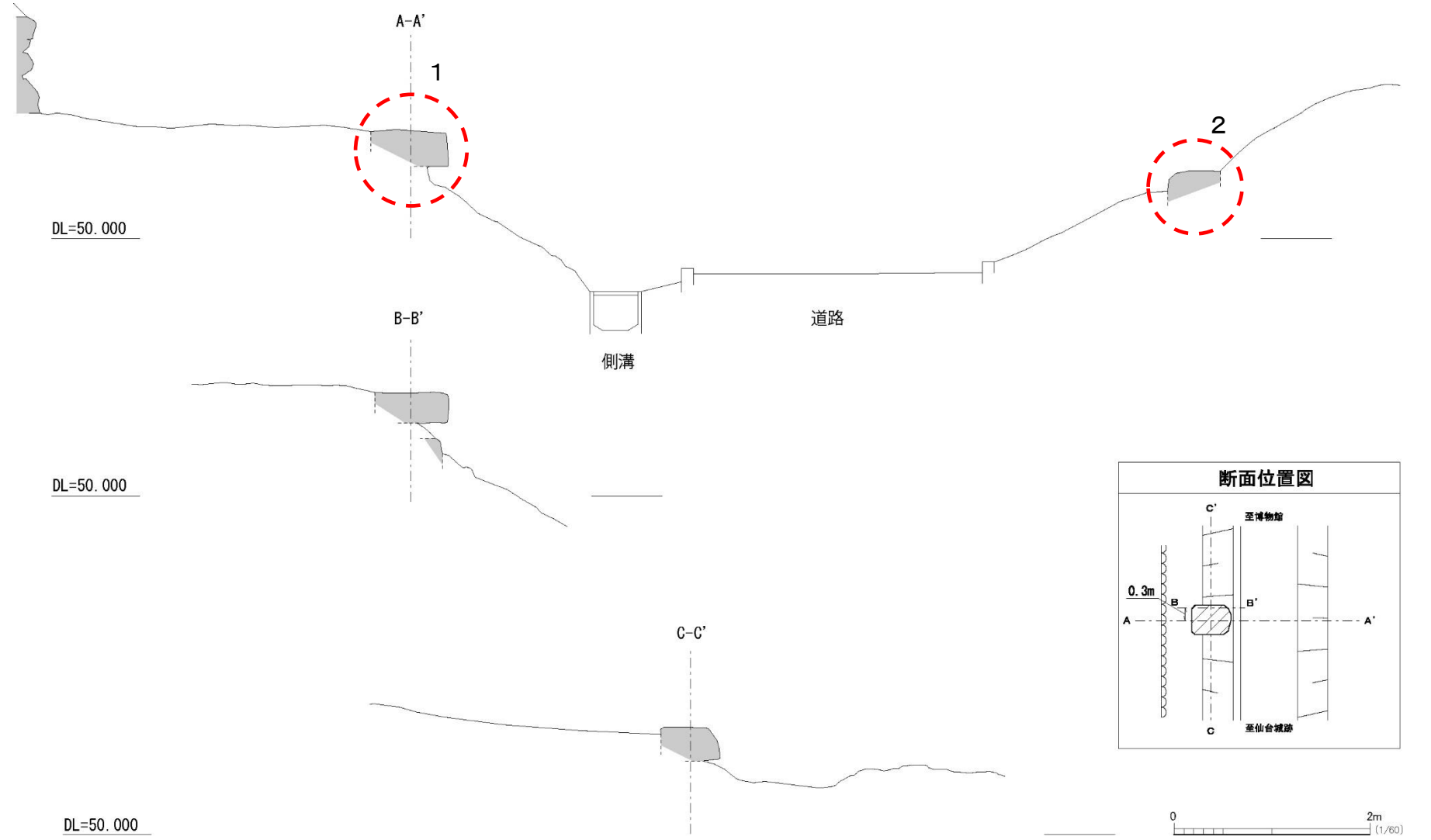


図 20 清水門北側礎石断面図

3) 令和2年度の調査について

[調査箇所] 登城路跡、三の丸土塁、三の丸周辺石垣等現況測量（沢門石垣）

※調査地点については資料1-1の図1を参照

- [調査目的]
- ・登城路跡4次（第35次）：巽門跡周辺の登城路の位置および遺構の確認
 - ・三の丸土塁6次（第36次）：江戸時代の三の丸（東丸）北側土塁の形状および土塁上の遺構の確認
 - ・沢門石垣測量（第37次）：登城路跡周辺に点在する石垣の現況確認および今後の整備に向けた基礎データの収集

[調査期間] 令和2年5月1日～令和3年1月29日（予定）

[調査面積] 第35次（登城路跡4次）：約104㎡（1区：88㎡、2区16㎡）

第36次（三の丸土塁6次）：約56㎡（1区：16㎡、2区：25㎡、3区：15㎡）

第37次（沢門下石垣測量）：約124㎡（立面）

第35次（登城路跡4次）

- ・登城路跡3次調査で検出した石垣の続きを明らかにし、石垣がどこまで延びているか確認する。
- ・江戸時代の三の丸（東丸）の形状を明らかにし、清水門へ至る登城路の位置と路面を明らかにする。

第36次（三の丸土塁6次）

- ・土塁盛土の残存状況を確認し、廃城後の改変の有無を明らかにする。
- ・絵図でみられる土塀の痕跡を確認し、その位置を明らかにする。

第37次（沢門下石垣測量）

- ・現況で石垣の変形が見られ、崩落の危険性がある状況であるため、早急に現況を記録することにより、保存のための方策を検討する材料とする。

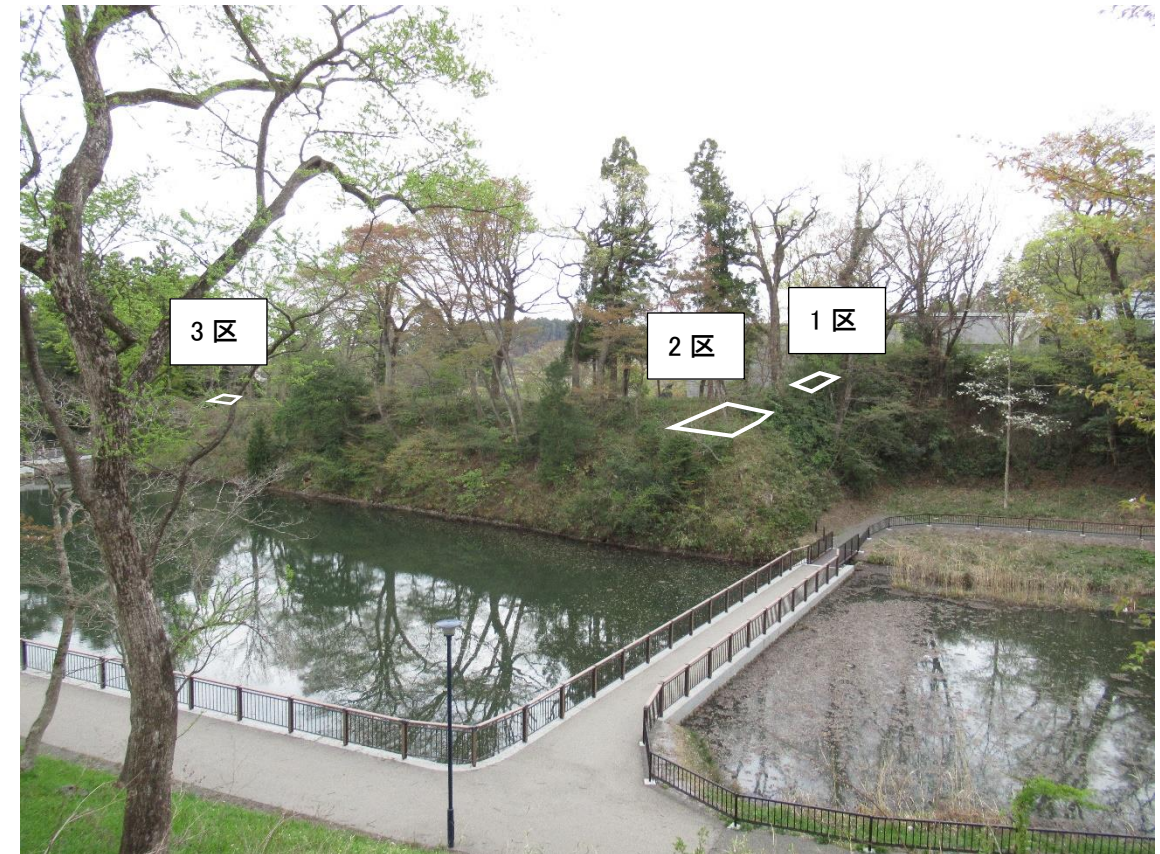


図23 三の丸北側土塁 1～3区（北西から）



図21 第35次調査1区（東から）



図22 第35次調査2区（西から）



図24 第37次調査（沢門下石垣測量）（北から）